山梨県立大学　人間福祉学部福祉コミュニティ学科　３つの方針

理念と目的

高度な専門知識と技術、深い共感的理解、問題解決への知的探究心、協働できる力を持ち、乳幼児から高齢者まで誰もが人間らしく、その人らしさを発揮して生活できる地域社会づくりに主体的かつ実践的に貢献できる人材を育成します。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

育成する人物像	・福祉コミュニティ学科 福祉行政で活躍する人 地域の福祉を担う人 様々な福祉サービスを提供する人 福祉のリーダー的役割を担う人

学士力　「学士専門力」			学修成果	測定方法
①	知識理解力	知識・技能	社会福祉・精神保健福祉・介護福祉などに関する基本的な知識体系を身につけ、多角的・総合的に理解することができる。	・カリキュラムマップにて示す「知識理解力」に係る科目の授業評価における学士力到達度及び事業評価アンケートによる自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「知識理解力」に係る科目の成績評価
②	技能		社会福祉に関わる地域社会の諸課題を発見し、その解決に向けた実践において多角的な視点から考え、修得した技能を活用できる。	・カリキュラムマップにて示す「実践力・問題解決力」に係る科目の授業評価における学士力到達度及び事業評価アンケートによる自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「実践力・問題解決力」に係る科目の成績評価
③	思考	思考力・判断力・表現力	社会福祉に関する地域社会の課題を発見、その解決に向けて理論や事実に基づいて論理的・総合的に思考し、適切に表現できる。	・カリキュラムマップにて示す「思考・技能」に係る科目の授業評価における学士力到達度及び事業評価アンケートによる自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「思考・技能」に係る科目の成績評価
④	共感的理解力		生活上の様々な困難を抱えた人々を含め、すべての人々への深い共感的理解を持ち、様々な方法を用いて表現し伝えることができる。	・カリキュラムマップにて示す「共感的理解力」に係る科目の授業評価における学士力到達度及び事業評価アンケートによる自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「共感的理解力」に係る科目の成績評価
⑤	地域貢献力	主体性・多様性・協働性	共生社会の実現に向けて地域づくりに積極的に参加し、貢献することができる。	・カリキュラムマップにて示す「地域貢献力」に係る科目の授業評価における学士力到達度及び事業評価アンケートによる自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「地域貢献力」に係る科目の成績評価
⑥	人間関係形成力		多様な人々の相談や支援を行うことができるコミュニケーション能力を持つともに、福祉専門職や他の専門職と協働する力を身につけている。	・カリキュラムマップにて示す「人間関係形成力」に係る科目の授業評価における学士力到達度及び事業評価アンケートによる自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「人間関係形成力」に係る科目の成績評価
⑦	態度・志向性		常に自らの人間性と専門性の向上に努め、福祉専門職として責務を果たそうとする態度や志向性を持つことができる。	・カリキュラムマップにて示す「態度・志向性」に係る科目の授業評価における学士力到達度及び事業評価アンケートによる自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「態度・志向性」に係る科目の成績評価

卒業判定基準	福祉コミュニティ学科では、本学の理念と目的に基づき、以下の学士力を身につけていると認められた者に、学士（人間福祉学）の学位を授与する。 １：全学に共通する「学士基盤力」 ２：福祉コミュニティ学科における「学士専門力」

教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

福祉コミュニティ学科ではディプロマ・ポリシーに基づいて以下の目標が達成できるよう、カリキュラムを編成する。
・外国語やデータ情報リテラシーなど将来にわたる学びの基礎となる知識・技能、および人間と文化・社会・自然などについての幅広い教養の修得
・専門分野(社会福祉・精神保健福祉・介護福祉)に関する理論的・実践的な知識・技術の修得
・人間に対する深い共感的理解と、誰もが人間らしくまたその人らしく生活できる社会づくりに貢献できる力の修得
・社会福祉や子育てに関わる地域社会の諸課題を発見し、その解決に向けて多角的な視点から考え、実践する力の修得
・すぐれたコミュニケーション能力と、多様な他者と協働する力の修得

＜総合性に関する方針＞
幅広い教養と併せて、専門職としての倫理、知識、技術を体系的に修得し、ソーシャルワークを基盤として、人類と社会の問題について、社会変革も見据えた総合的な視野を養う科目群を編成する。
全学共通科目では、人間や社会に対する学問的探究、豊かな人間性を育成する科目を配置する。学部教養科目では、福祉を理解し多角的な視野を身につけるための教養科目を設定する。専門基礎科目、専門共通科目、資格課程ごとの分野別科目・実習科目において、社会福祉、介護福祉、精神保健福祉の各分野を理解するための基礎を学修し、講義、演習、実習による学びの循環を促進する教育課程を編成する。学科専門科目は、3福祉士（社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士）の資格課程必修科目を中心に構成され、それらに加えて人間と社会の問題について理解を深める科目を関連科目として配置する。これらの学修を土台として、研究課題を自ら設定し、主体的・協働的に探究する総合力を身につけることを目的とした卒業研究の科目を設ける。

＜順次性に関する方針＞
本学科の教育カリキュラムはソーシャルワーク教育を土台として編成され、それに加えて学生の選択により介護福祉士、精神保健福祉士を積み上げる形で構成する。ソーシャルワーク教育に関しては、まず1年次に専門基礎科目を中心に配置し、基礎的な倫理・知識・技術を、主に講義系科目を通じて学ぶ。2年次は専門共通科目を中心に配置し、実践を意識した応用的な倫理・知識・技術を演習等で身につける。3・4年次は分野別科目SWと実習科目SWを中心に配置し、福祉現場での実習を通じて知識・技術を応用し、問題解決力や人間関係を形成していく力を修得する。卒業研究では課題の発見と探究する能力を修得し、生涯にわたる学習と成長へとつなげる。
介護福祉士課程は、ソーシャルワーク教育に加えて1年次から分野別科目ＣＷ、実習科目CWを配置し、講義、演習、実習を循環させつつ介護を実践する力を段階的に修得する。1年次は対象者との関係形成、2年次は小規模高齢者施設と障害者支援施設での介護実践、3年次は在宅への訪問介護実践、4年次は高齢者施設における介護過程の展開を実習目的とし、それまでの学修内容を応用し実習に向けて学修を積み重ねていく。
精神保健福祉士課程はソーシャルワーク教育に加えて、2年次から課程に所属し２・3年次に分野別科目ＭＨＳＷにより精神保健領域の基礎を講義科目を通じて学ぶ。4年次は分野別科目MHSW、実習科目MHSWの演習、実習を通じ精神保健福祉援助や障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を修得する。

＜実施に関する方針＞
教育課程編成方針に則り編成した科目については、ナンバリングやカリキュラムマップ、カリキュラムツリーにて総合性や順次性を明示する。講義、演習、実習・フィールドワーク等の多様な方法を組み合わせて、主体的・対話的で深い学びを促進する。
具体的には、以下の学修内容・方法を実施する。
講義：専門分野の倫理と理論や、関連する社会問題等の知識を修得する。
演習：専門分野の実践的な知識・技術と、社会を捉える視点・思考力を養う。
実習：地域社会における実践を通じて、専門分野の知識・技術を応用し、課題解決の能力を養う。
学修成果は、定期試験、レポート、実習報告書の作成、実習報告会での発表、授業中の小テストや発表などの平常点で評価することとし、その評価方法については、各科目のシラバスに示す。

入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

人間福祉学部は、大学での学修の前提となる基礎的学力と、人への共感性・コミュニケーション力を備え、福祉社会の発展への貢献や子どもの発達と幸福の支援等、社会貢献への意欲と関心を持った学生を選抜することを基本とします。これにもとづき、各学科では、以下のような学生を受け入れます。

＜入学前能力＞
AP1:ソーシャルワークに関する知識・技術・価値・倫理を活用し，地域共生社会の実現，人類の福祉の発展に貢献できる実践力を身に付けたい人
AP2:様々な困難を抱えた人々への深い理解にもとづいて，現代社会の多様な福祉課題を考究し，制度づくりや新しい支援方法、支援体制等の解決策を構想し実践したい人
AP3:大学での学修の基礎的学力を前提として、主体性をもって多様な人々とコミュニケーションを取り協働しながら学び続けたい人

＜入学後能力＞
福祉コミュニティ学科入学後には，自らがさらに努力を重ね，多くの人々と関わり合いながら，ソーシャルワークに関わる福祉課題，実践に一層の関心を持ち，これまでに身につけた能力をさらに磨くとともに，社会福祉，介護福祉，精神保健福祉等の複数の専門領域を包摂した教育課程を通して，ソーシャルワークに関わる専門職としての知識・技術・価値・倫理を修得するとともに，社会の出来事に対する問題関心と解決策を構想する力を身に付け，基本的人権を尊重し，他者と協働することの重要性とソーシャルワーカーとしての倫理観・社会的責任を理解してください。

＜評価方法＞
入学者選抜においては、入学前能力を持つ多様な人材を選抜するため、一般選抜・学校推薦型選抜・特別選抜（海外帰国生選抜・社会人選抜・外国人留学生選抜）・3年次編入学を実施します。
各選抜においては、学力の３要素を測定するために、小論文、面接等、大学入学共通テスト等によって評価します。
「知識・技能」
① ソーシャルワークに関する知識・技術・価値を学ぶために、高等学校教育における幅広い基礎的な知識や技能を身につけている。（AP３）
② 多様化・複雑化する福祉ニーズや危機、リスクを増幅する社会的脆弱性の解消や低減のために社会福祉、介護福祉、精神保健福祉等の社会福祉に関する基礎知識を身につけている。（AP１）
「思考力・判断力・表現力」
③ 文章や他者の発言から、その内容や意図や求められていることを的確に理解し、それに応じるために必要な能力を身につけている。（AP３）
④ ソーシャルワークの対象となる当事者の置かれている問題に対して、理論的に思考・判断し・解決するために必要な能力を持っている。（AP２）
「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」
⑤ 自らのアイデアや経験を地域共生社会の実現に活かすうえでの明確なビジョンを持っている。（AP２）
⑥ 多様な意見を尊重しつつ、他者とのコミュニケーションを通して協働的に物事を解決する態度を持っている。（AP３）